

一年生と遊んでから

平成十年　　度　　六年女児

私は、五年生の時までは一年生とあまり仲よくはありませんでした。登校班にも一年生がいなかったし、昇降口もグラウンド側で別だったので、仲よくなかったのかもしれない。

六年生になって、私は登校班の班長になりました。入学式がおわり、一年生といっしょに登校する日に私はこう思いました。「一年生ってうるちよろしてあぶないかもなあ、大変そうだなあ。」そして、どうしたらいいか考えました。「やっぱり手をつないでいこう。」そう決めて集合場所へ行きました。

言うことを聞いてくれなかったらどうしよう、と思いつながら一年生の手をとったら、すぐに手をつないでくれたので、一年生ってあんがいすなおだなあと思い、ちょっぴり安心しました。

朝自習の時間に、六年生が交代で一年生の教室へ紙しばいを読みに行つてあげるようになりました。

私と聡子さんが紙しばいを読みに行く番がまわつてき

ました。先に行った友だちから聞いた話によると、

「一年生、あまり聞いてくれねけー。」

「いくら注意しても静かにならねけー。」

などといっていたので、私はちよつといやだなあと思っていました。読書室から紙しばいを選び、一年生の教室へ行きました。教室の戸を開けた時、私は「あーあ、やっぱり。」と思いました。一年生たちは、大声でおしゃべりをしていたり、席を立っていたりして、すごい状態でした。「うわあ、ちよつとやだなあ。」と思わず口に出してしまいました。

けれども、あのすごい状態も、私たちが入って行ったら少しおさまりました。

「紙しばい読ぶよ。」と言ったら意外とすなおに席にすわってくれました。いい子たちだなあと思えるようになってきて、だんだん一年生を思う私の気持ちが変わってきました。紙しばいを読み終えて教室から出た時、一年生五、六人が教室から出てきて、

「明日も来てね。」と言ってくれました。私は、最初に一年生に感じていたことがだんだんいやになっていきました。あんなにすなおない子の一年生たちを、悪者あつかいのように思っていたからです。

そうじの時もそうでした。六年生が一年生の教室そうじを手伝うので、一年二組へ行った時です。一年生たちが

「身じたくむすんで。」と次々に寄ってきました。私はなんだかうれしくなりました。初めはちよつといやな気がしていたのに、いまでは一年生といると楽しくなってくるのです。それから私たちは、中間休み、昼休みといっしょに遊ぶようになりました。私は、それまでとはちがって、中間休みと昼休み、少しでもおけると急いで遊びに行くようになってしまいました。一年生たちが待っているとと思うと、つい急いでしまうのです。

一年生と遊ぶようになれて本当によかったと思います。それは、いままでに私にはなかった行動力もついたし、何といっても、一年生に対する思いが急に強くなったからです。上級生らしく行動できるようになってきたと思います。だから、ずっとこの思いを大切にしていきたいです。

一年生と仲よくなれて本当によかったと思います。